

## 指導者養成の新たな取組（2018年度第1弾）を敦賀市きらめきみなと館で開催！ ～教育改革に対応した指導者養成 鈴木みゆき理事長がコーディネート～

国立青少年教育振興機構では、全国各地の国立青少年教育施設において、様々な教育活動、体験活動等の「指導者養成」のための取組を行っています。特に、機構本部では、当機構が青少年教育のナショナルセンターであることから、国が進める教育改革に応じて、今後の指導者養成の新たなモデルとなる取組を実施しています。

特に、2018～2022年度にかけて順次進められる改訂学習指導要領の実施の動きに応じて、また、その一番手が幼児教育であることを踏まえ、幼稚園教諭や保育士等を対象としたシンポジウム形式の研修会を開いています。その中では、文部科学省や厚生労働省、内閣府など、関係府省から講師をお招きし、改訂の背景や真意などの解説、実践事例の紹介をいただいています。

また、2018年度の研修会では、今回の学習指導要領改訂の重要なポイントである学校段階ごとの教育課程の接続（例えば、いわゆる「小1プロブレム」など生じさせないよう、子供たちが幼稚園等から小学校に進む際に円滑に教育活動を進めるための対応など）についてお伝えすることにしています。

このたび、平成30年6月30日（土）に、今年度第1弾として、敦賀市教育委員会との協働により、敦賀市きらめきみなと館を会場に開催しました。研修会のテーマを「家庭・園・学校・地域が主体的に『つながる』ための園・学校としてのきっかけづくり」として、幼児教育関係者だけでなく、小中学校の教員の方々を含め191人の参加を得ることができました。

今回の講師は、国の府省から、文部科学省の湯川秀樹視学官、内閣府の横澤峰紀子教育保育専門官、先進地域から、草加市教育委員会の嶋田弘之子ども教育連携推進室長をお招きし、また、敦賀市の施策紹介等のため、敦賀市教育委員会の江戸課長にもご登壇いただき、鈴木みゆき理事長のコーディネートにより講師等それぞれとの掛け合いによる研修会が行われました。



（下段左から文部科学省湯川視学官、内閣府横澤専門官、草加市教育委員会嶋田室長、敦賀市教育委員会江戸課長、コーディネーターの鈴木みゆき理事長）